

校内マラソン大会を終えて

川棚高等学校長 畑野 公昭

「今日走る道は太陽でキラキラ光って君たちが走るのを待っています」…体育の米田先生による走路の状態を知らせる校内放送で、走る意欲のスイッチがカチッと入った生徒も多かったのではないのでしょうか。2月9日、雲一つない晴天のもと、1，2年生の男女によるマラソン大会が、一部の3年生のサポートを受けながら実施されました。「身体と精神を統一的に試すとともに、精神的耐久性を養う」「体力向上のために全身持久力を増強する」という目的のもと、校地外のコースを、男子は約10km、女子は約5kmを走り、個人・クラスで競い合うという川高恒例の行事です。

新型コロナウイルス感染予防のため、スタート40秒前くらいまでマスクを着用し、指示でマスクをポケットにしまった直後にスタートの号砲が鳴るという点が、例年とは異なる象徴的な場面でした。開会式にあたって、私からは「それぞれに目標を持つこと」「挑戦する気持ちを持つこと。」「川高生らしい走り姿を見せること」などに触れつつ充実した大会になるように激励しました。

マラソン大会に至るまでには、体育の授業で、2学期末頃から少しずつ走る距離を伸ばして体力と持久力の強化を図る準備がなされ、この準備段階そのものが生徒の心身を鍛錬する機会であることに大きな意味があります。何も準備しないまま走れば、すぐに音を上げてしまうような場面で、参加した生徒全員が完走したことは、準備段階における川高生のひたむきさや粘り強さといった、途中のプロセスに手を抜かない真摯な取組が感じられました。何より、それぞれの目標に向かって懸命な態度が醸し出され、その実直な、また時に送られる声援に笑顔で応える走り姿は、小春日和の陽光に照らされた路面以上に輝いていたように思います。

自分が立てた目標が実現したこと、また、たとえ実現しなくても目標を実現させる意欲を持ったり努力をしたりしたことは、自分にとっての「小さな自信」になると思います。その小さな自信が、次のあらゆるステップの「大きな一歩」につながります。今回のマラソン大会が、何かに挑戦したことの証として刻まれ、次の一歩の踏切板となれば幸いです。

例年ならば、PTAによる炊き出しがありましたが、新型コロナのため、本年度はおにぎり弁当と饅頭を配り、保護者の子どもたちをねぎらう気持ちとして受け止めてもらうようにいたしました。

よくマラソンは人生に譬えられますが、今回のマラソン大会を通して、ひとりひとりの生徒が、困難に負けることなく、誠実に、前向きに走り続けてくれるものであることを予感させてくれました。

そのような生徒に、ぜひこれからも声援をお願いいたします。